ドミトリー・マスレエフ（ピアノ）
Dmitry Masleev (Piano)

「ドミトリー・マスレエフは間違いなくひとつの発見であり、すばらしいピアニストである。
私は彼の成功を心から嬉しく思う。彼はこの成功に値する」
―― ボリス・ベレゾフスキー（ピアニスト）

マスレエフは、2015年に行われた第15回チャイコフスキー国際コンクールにて、聴衆とメディアの両方から、そして審査員の全員一致で優勝を認められた。これは権威ある音楽コンクールにおいても実にまれなことである。

「その精密な演奏、欠点のないテクニック、形式のセンス」（「ネヴァ・タイム」）、「あらゆるピアノの技術を持つ」（「ロシースカヤ・ガゼタ」）、「輝かしく、叙情性があり、自信と自然な自分のスタイルを持つ」（「コメルサント」）など、批評家は多方面からマスレエフの芸術性を評価している。

1988年、ロシアのウラン・ウデ生まれ。モスクワ音楽院でミハイル・ペトゥホフに師事。2011年に同音楽院を卒業後、2014年に大学院を修了。2014～15年に、イタリアのコモ湖国際ピアノ・アカデミーで研鑽を積む。

2010年の第7回アディリア・アリエヴァ国際ピアノ・コンクール（フランス）、2011年の第21回プレミオ・ショパン国際ピアノ・コンクール（イタリア）、2013年のアントニオ・ナポリターノ国際ピアノ・コンクール（イタリア）など数々のコンクールに入賞した。2014年には第2回ロシア音楽コンクールにて第3位を受賞。

チャイコフスキー国際コンクール優勝後は、ロシア、フランス、ルーマニア、ドイツ、イタリアで積極的に演奏活動を行っている。2015年8月には初来日し、ワレリー・ゲルギエフ指揮／PMFオーケストラと共演した。

2つの異なる個性で聴く「展覧会の絵」

秘められた情熱とメランコリー
アレクサンダー・ロマノフスキー
ピアノ・リサイタル
シューマン: アラベスク、トッカータ、謝肉祭
ムソルグスキー: 組曲「展覧会の絵」

2016年7月5日（火） 19:00開演　紀尾井ホール
S¥6,400　A¥4,800

© 堀田力丸

世界を飛翔する現代最高のヴィルトゥオーゾ！
アレクサンダー・ガヴリリュク
ピアノ・リサイタル
シューベルト: ピアノ・ソナタ第13番 イ長調 D.664
ショパン: 幻想曲、夜想曲第8番、ポロネーズ第6番「英雄」
ムソルグスキー: 組曲「展覧会の絵」

2016年7月14日（木） 19:00開演　東京オペラシティ コンサートホール
S¥6,400 A¥5,400 B¥4,300

新時代の旗手が魅せる、煌きのピアニズム
ニコライ・ホジャイノフ
ピアノ・リサイタル

2016年 11月28日（月） 19:00 浜離宮朝日ホール　全席指定¥6,400

ショパン:　アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ
ショパン:　ワルツ第6番「小犬」、第9番「告別」、第10番
リスト:　ヘクサメロン ― 演奏会用小品 ―
ベッリーニの「清教徒」の行進曲による華麗なる大変奏曲
シューマン:　アラベスク、幻想曲

最新情報・アーティストの情報は、ジャパン・アーツのSNSで！
ジャパン・アーツは様々なソーシャルメディア（SNS）を使って、最新情報をお届けしています！

【Twitter】
海外のアーティスト、バレエ、オペラ、日本人アーティストの速報・最新情報はTwitterで！
バレエ専用Twitterもフォローミー!!
@ja_ballet

【facebook】
クラシック音楽をもっと楽しく、もっと身近に！
人気ライターが月一でクラシック音楽、オペラ、バレエなどに関するコラムを届けています。

【YouTube】
アーティストのメッセージや公演のプロモーション動画を紹介しています！
チャンネル登録をして、ぜひご覧ください！

人のいるところには夢がいる。 JAPAN ARTS
お問い合せ ジャパン・アーツぴあ 03-5774-3040 www.japanarts.co.jp
HPでは24時間受付中！ twitter @japan_arts

ドミトリー・マスレエフ
ピアノ・リサイタル　Dmitry Masleev Piano Recital

2016年6月13日（月）　19:00開演
浜離宮朝日ホール
7:00p.m. Monday, June 13, 2016 at Hamarikyu Asahi Hall

主催：朝日新聞社／ジャパン・アーツ　後援：ロシア連邦大使館

おかげさまで40年 40 Anniversary JAPAN ARTS

Program

J.S.バッハ：パルティータ 第1番 変ロ長調 BWV825
J.S.Bach : Partita No.1 in B-sharp minor BWV825

シューマン：ピアノ・ソナタ 第2番 ト短調 Op.22
Schumann : Piano Sonata No.2 in G minor Op.22

第1楽章 できるだけ急速に　1st mov. So rasch wie möglich
第2楽章 アンダンティーノ　2nd mov. Andantino
第3楽章 極めて急速に明瞭に　3rd mov. Sehr rasch und markiert
第4楽章 ロンド～プレスト　4th mov. Rondo～Presto

シューベルト／リスト：「水に寄せて歌う」Op.72
Schubert/Liszt : "Auf dem wasser zu singen" Op.72

リスト：超絶技巧練習曲集 第8番「狩」
Liszt : Etudes d'exécution transcendante No.8 "Wilde jagd"

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

チャイコフスキー：18の小品 Op.72
Tchaikovsky : 18 Morceaux Op.72

第14番「悲しい歌」　No.14 Cahnt élégiaque
第16番「五拍子のワルツ」　No.16 Valse à cinqtemps
第15番「少しショパン風に」　No.15 Un poco di Chopin
第18番「踊りの情景、トレパークへの誘い」　No.18 Scène dansante, Invitation au trépac

メトネル：「忘れられた調べ」第1集 Op.38より 第1番「追想のソナタ」イ短調
Medtner : Vergessene Weisen Book1 Op.38-1 Sonata reminiscenza in A minor

サン=サーンス／リスト／ホロヴィッツ：「死の舞踏」
Saint-Saens / Liszt / Horowitz : Danse Macabre

当初発表の曲目より変更しております。何卒ご了承ください。

2016年 日本公演スケジュール

6月 9日（木）	東京芸術劇場	主催：ジャパン・アーツ （バシュメット指揮／モスクワ・ソロイスツとの共演）
6月10日（金）	武蔵野スイングホール	主催：公益財団法人武蔵野文化事業団
6月13日（月）	浜離宮朝日ホール	主催：朝日新聞社、ジャパン・アーツ

Program Note

道下京子（音楽評論家） Kyoko Michishita

J.S.バッハ：パルティータ 第1番 変ロ長調 BWV825

ドイツ東部のアイゼナッハに生まれたヨハン・ゼバスティアン・バッハ（1685−1750）。1717年にアンハルト=ケーテン侯レオポルトの宮廷楽長に就任し、数多くの器楽作品を書き上げた。1723年にライプツィヒへ移り住み、トマス・カントールの楽長に就く。その地で1725年頃、彼はピアノのためのパルティータを6曲作曲。これらは1731年に作品1として出版された。パルティータは、バッハの時代には舞曲からなる組曲を意味した。彼のパルティータは、それまでの伝統的な組曲から変質して、定型にはまらない自由さや配列の書法が取り入れられている点が大きな特徴である。

第1番のパルティータは、7つの舞曲で構成され、すべて変ロ長調で書かれている。それまでの組曲と異なり、各舞曲ともにあまりポリフォニックではなく、きたるべき古典派の様式への近さを示している。

シューマン：ピアノ・ソナタ 第2番 ト短調 Op. 22

ローベルト・シューマン（1810−56）のピアノ作品は、1830年代に集中的に書き上げられており、彼の3曲のピアノ・ソナタも1830年代の創作である。完成した3つのピアノ・ソナタ以外にも、シューマンはこのころに2つのピアノ・ソナタ（ともに未完）を手掛けているように、1830年代はピアノ・ソナタの作曲に対する彼の関心が高まった時期であった。

彼が第2番の創作に着手したのは1830年で、1835年に書き上げる。しかし、クララ・ヴィークの批判を受けて第4楽章を新たに作曲し、1838年に完成をみた。ちなみに旧第4楽章は、のちにブラームスの校訂で刊行されている。ソナタ形式の伝統的な手法を踏み越える表現を試みた第1番のピアノ・ソナタと比べ、第2番の第1楽章は伝統的なソナタ形式に従い、作品全体を通しても堅実な書法で書かれている。

このソナタは4楽章構成で、第1楽章は均整のとれたソナタ形式、1828年作曲の「11の歌曲集」の第8曲「秋に」のメロディを引用した第2楽章、第3楽章はヘミオラのリズムを使用することで、漂うような印象が醸し出されている。そしてクララの指摘を受けた第4楽章は、推進力あふれる表現が特徴。

シューベルト／リスト：「水に寄せて歌う」Op. 72

フランツ・シューベルト（1797−1828）は31年の短い生涯で、幅広いジャンルの創作を手掛けた。なかでも、歌曲は彼の重要な創作のジャンルで、それまでの歌曲の表現を刷新し、テキストの内容の深い表現とともに、ピアノ伴奏に重要な役割を持たせた。

彼の歌曲のいくつかを、フランツ・リスト（1811−86）は、原曲に比較的忠実なトランスクリプションというスタイルで編曲した。本日、演奏される「水に寄せて歌う」もシューベルトの歌曲。原曲にはテキストにシュトルベルク伯の詩が用いられており、揺らめくような音の動きが心に残る。

リスト：超絶技巧練習曲集 第8番「狩」

ヴィルトゥオーソのピアニストとして名を馳せたリストは、超絶技巧を駆使した練習曲集の創作を手掛けた。「超絶技巧練習曲集」は、彼の原点とも言うべき作品であるが、作曲にあたって推敲と改訂を繰り返す彼の作曲手法と、創作の深化をよく示している。この練習曲集は、15歳で書き上げた「すべての長短調のための48の練習曲集」（完成したのは12曲）をいしずえとし、1838年には「24の練習曲集」（実際に作曲したのは12曲）へと改稿され、1851年に最終稿である「超絶技巧練習曲」（全12曲）として完成をみた。彼はもともと、すべての長短調を用いることを考えていたため、平行調の関係（ハ長調−イ短調というように同じ調号をもつ調関係）で調を配置している。

第8番「狩」（ハ短調）の本来の訳は「死者の群れ」である。この曲は、嵐の夜に魔王に率いられて死霊が狩りを行なうという、古い伝説をモティーフとしている。

チャイコフスキー：18の小品 Op. 72

第14番「悲しい歌」
第16番「五拍子のワルツ」
第15番「少しショパン風に」
第18番「踊りの情景、トレパークへの誘い」

ピョートル・チャイコフスキー（1840−1893）のピアノ曲は小品が多い。それは、ピアノ曲では教育目的あるいはアマチュアのための作品が重きをなしていることによる。彼のピアノ曲の多くは、ドイツ・ロマン派の影響を強く受けた組曲の形式に基づいている。「18の小品」は1893年に書き上げられた彼の最晩年の創作。この小品集は、以前の小曲集とはまったく異なり、高度な技術と表現力が求められる。

第14番「悲しい歌」：むせび泣くようなメロディに耳を奪われる。変ニ長調でありながら、時おり挿入される短調の和音は、こみあがる悲しみを表わしているかのようである。

第16番「五拍子のワルツ」：ウィーンのワルツは3拍子であるが、このワルツは5拍子である。チャイコフスキーは同年に作曲した交響曲第6番「悲愴」の第2楽章にも5拍子のワルツをとり入れている。

第15番「少しショパン風に」：楽想はショパンのノクターン風であるが、表情記号には「マズルカ風に」と記されているように、個性的な付点リズムもこの作品の特徴である。

第18番「踊りの情景、トレパークへの誘い」：緩やかな序奏に続き、トレパークという2拍子の民族舞曲が始まる。

メトネル：「忘れられた調べ」第1集 Op. 38より 第1番「追想のソナタ」イ短調

ニコライ・メトネル（1880−1951）はピアノの演奏に優れ、ヴィルトゥオーソ・ピアニストとして活躍していた。また、作曲家としても活動し、ロシア・リリシズムの最後を飾る作曲家と言えよう。事実、ロシア革命やモダニズムの流れのなかで、彼は古き良いロマンティシズムを「忘れられた調べ」という標題で表わした。「忘れられた調べ」は3集からなるピアノ作品集で、組曲のようなスタイルをとる。いずれも亡命する直前、1918～20年にかけて作曲されたと見られている。第1集には7曲収められており、その第1曲が単一楽章による「追憶のソナタ」である。文字どおりソナタ形式に基づいており、曲の冒頭に「追憶の動機」が示される。この動機は、曲中に回顧的に現われる。

サン=サーンス／リスト／ホロヴィッツ：「死の舞踏」

近代フランス音楽の礎を築きあげた作曲家、カミーユ・サン=サーンス（1835−1921）。1871年に「国民音楽協会」を創設し、なかでも器楽作品の興隆に心血を注ぐ。彼は、その翌年に歌曲「死の舞踏」を作曲し、2年後に同名の交響詩を完成させた。

この交響詩の創作は、彼が深く敬愛したリストの影響による。カザリスの詩に着想を得たサン=サーンスは、骸骨が躍る様を5度の不気味な響きと駈りたてるような動機によって描写的に表わしている。

この交響詩を、リストは1876年にピアノ独奏の作品へ編曲し、さらにヴラディーミル・ホロヴィッツ（1903−89）がそこに絢爛豪快なヴィルトゥオーソの表現を付け加えた。